

令和7年度 第1回徳島県西部地域医療構想調整会議 議事録

日 時：令和7年7月28日（月）19：00～20：05

場 所：（Web開催）

出席者：17名

報告事項1 新たな地域医療構想について

報告事項2 かかりつけ医機能報告制度について

（議長）

本日は大変お忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。それでは、議事に移らせていただきます。報告事項1「新たな地域医療構想について」、報告事項2「かかりつけ医機能報告制度について」、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

資料1、2により説明

（議長）

ただいまの説明についてご意見、ご質問などございましたらお願いします。

（須藤委員）

先日、県医師会であった県医療政策講演会で厚生労働省の医療課長が来られ、今般の医療機関の機能というところ、色々お話をいただいたんですけども、今日だと資料1の7ページ目、「医療機関機能について（案）」なんですけど、現在日本では少子高齢化が問題になっているんですが、内容を見ると高齢化社会のことばかりで、ご存じのように県西部では半田病院が小児の輪番も金土日月を担当して、周産期医療、お産もやってます。ただ、今後人口がどんどん減っていけばそこは不採算になっていくようなところなんですけれども、県西部でお産、子育てができるところを安心して作るっていうような概念が、この医療機関機能についてないのではないですかと意見を申し上げたところであります。この県西部でどうやって子供を産み、育てていくのか、久原先生などは頑張って小児の子供さんを診てくださってますけど、そういった環境をいかに維持していくかっていうのは、行政の方も入っておられるので、この中の機能には書いてないですけど、ぜひそういったディスカッションを今後の西部地域医療構想調整会議でできればと思っております。以上です。

（議長）

事務局の方、どうでしょうか。

（事務局）

新たな地域医療構想については今後示されることになっておりますが、これまでは保健医療計画の中に位置付けられていたものが、新たな地域医療構想は保健医療計画の上位のものとして位置付けて検討

していくということとなっております。元々、保健医療計画については、皆様ご存じのように12の柱ですね、今ご紹介いただいた周産期医療でありますとか小児救急・小児医療なども12の柱の中に入っておりますので、新たな地域医療構想を検討していく上では、そこも含まれたということで考えております。ただ、これまでの病床機能と、新たな医療機関機能というところについては、まだこれから具体的なところが示されてくると思っておりますので、また引き続き情報共有をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。その他ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、議事を進めてまいります。

報告事項3 病床数適正化支援事業の適用における病床削減の予定について

報告事項4 つるぎ町立半田病院における対応方針について

(議長)

続きまして、報告事項3「病床数適正化支援事業の適用における病床削減の予定について」、報告事項4「つるぎ町立半田病院における対応方針について」、事務局及び半田病院より説明をお願いします。

(事務局)

資料3により説明

(半田病院)

資料4により説明

(議長)

ただいまの説明についてご意見、ご質問などがございましたらお願いします。

(中川委員)

資料3ですけれども、病床削減の申請数がちょっと多いような感じがいたします。こういった状況が続きますと医療提供体制についていろんな問題が生じてくるように思われるんですけども、いかがでしょうかというのが1点。それと、先ほど半田病院からおっしゃっていただいたように、医師の偏在とか看護師の不足によって、保険者として健診とか保健指導がおろそかになっていくところ非常に危惧されると思うんですけども、その辺も含めた対策は何か立てられるのでしょうか。半田病院さんは非常に協力的、前向きにさせていただいてるところでございますけれども、その他のところについてはどういった方向性があるのかちょっとお聞きできればと思います。以上です。

(議長)

まず事務局の方に、病床の削減申請数が多いことについてはいかがでしょうか。

(事務局)

ご質問いただきました件ですが、県下全体としてのお答えがよろしいでしょうか、それともこの西部医療圏としてのお答えがよろしいでしょうか。

(中川委員)

県下全体でも西部でも、どちらでも結構でございます。

(事務局)

分かりました。地域医療構想につきましては、本日の会議も西部医療圏、西部の構想区域についての検討会ということで、県内の3つの医療圏、構想区域ごとに調整会議を実施していただいているところです。それぞれの構想区域ごとに、今年度が最終年度でございます地域医療構想の2025年度の必要病床数に向けてということで取り組んできたわけなんですけれども、この数字、今日お示しはできておりませんけれども、皆様方大体ご承知のとおり、この西部医療圏については今回の半田病院さんの件もありますように、やはりだんだんと減ってきている。実際に半田病院さんからもご説明いただいたように、入院される患者さんというのがコロナの間を経て終わっても、減ってきたというところと並行して病床が減ってきたというところです。県下全体で見ても、やはり入院患者さん等は減っては来ているところなんですけれども、徳島市等を中心とした東部医療圏については必要病床数にだんだん近づいてはいるものの、やはり西部や南部と比べますと、まだ必要病床数よりは多い状況というところがございます。こういう中で、今回、病床数適正化支援事業ということで、病床削減の希望調査が厚生労働省からありまして、県として調査をさせていただいた結果というのがまさに今回の病床削減の数というところなんです。今回、精神病床の方は入れておりませんが、全体としてみますと元々患者さんが少し減ってきていたので休床、休んでおられた病床というのも含まれておりますので、全体としては実際に稼働されていないところも含めて削減申請があったところもかなりあったところです。今回、個別はお示ししておりませんが、削減申請数の県全体としては258床、これは一般病床及び療養病床の数字なんですけれども、その中で115床が今回支援金として認められたというところで、実際に9月30日をもって全て削減されるかどうかというのは医療機関の判断となる、と先ほど担当の方から説明させていただいたところがございます。この115床については削減することによって支援金を受け取れるということになるんですけれども、残りのところにつきましては個別の医療機関と今相談中というところもがございます。ですので、今後状況を見ながら、各医療圏、構想区域ごとに数字も情報共有しながら進めていきたいと考えております。そのままのお答えにはなっていないかもしれませんが、そのような状況でございます。よろしいでしょうか。

(中川委員)

はい、ありがとうございます。

(議長)

医療従事者の減少による健診などへの影響についていかがでしょうか。

(事務局)

こちらは医療機関さんの方からお答えいただいたりするのがよろしいでしょうか。それとも実際の健

診等になりますと、各自治体さんへの影響も大きいかと思うんですけども。

(中川委員)

基本的に、医師の偏在や看護師さんの不足などがあると思うので、そういうことが進む前に、ある程度、県でもそういったところも含めて考えていただきたいという意見です。このままいきますと健診の方も十分な対応ができなくなるのではないかというのが保険者として1番の懸念することなので、それも含めた上で健診もうまくできるような体制を考えていただければという意見として受け止めていただければと思います。以上です。

(事務局)

健診も、特定健診やがん検診等もあったり、職域の健診や学校健診等も含めると幅広くある中で、地域の医療機関に大変お世話になっており、そういった医療機関が、特にこの県西部では少なくなっているのは、本当に委員がおっしゃっていただいたとおりです。実際に、例えば乳児健診等においては、早くから小児科の先生が少なく、久原先生等を含めて小児科の先生方ご苦労いただいているところですが、どうしても広域的にやっていかざるを得ないところもあります。あわせて、県立中央病院と徳島大学の前にあります県総合健診センターからも過疎地域等へはバスでの健診もありますけれども、なかなか地域住民の方が減ってきていて、そういったところを順番に回っていく。自治体の方もご苦労いただいて声かけもしていただいているところですので、これは本当に継続できるよう我々としても努力をしていきたいと思っております。また、この法定健診である特定健診以外にも、やはりがん検診ですね。今月初めに県としても、がん征圧共同宣言を出したところです。やはり徳島県ではがん検診の受診率が低い、できるだけ早期発見、早期治療に結びつけていくということからも、皆様方と一緒に取り組んでいるところですので、そういった体制が確保、維持できるよう我々も努力していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。

(須藤委員)

病院の立場から1点よろしいでしょうか。先ほどグラフにお見せしましたように、人口はどんどん減っていったるんですけども、そうすると患者さんの数は減るんですが、健診を受けておられない方がたくさんいらっしゃるんです。半田病院は大赤字なんですけれども、健診室をクリーンに綺麗に改修いたしました。よりたくさんの方、住民の方々に健診を受けていただいて、それを病院の収益にもしながら、住民の皆さんが健康になっていただいて、患者さんは減っていくんだけど、住んでる人がいれば、健診である程度病院の財政も残しながら、病院の維持に努めようということで今考えてやっております。国も県も健診に力を入れていく方向にありますので、それにお答えしながら、なんとか病院を存続させて頑張っていこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。

(木下委員)

美馬市医師会からよろしいでしょうか。我々も特定健診の受診率向上に随意努力はしておるところでありますけれども、徳島県の総合健診センターから県医師会に対しまして、休日の特定健診、住民の集団健診と胃透視の健診に出務する医師が退職のために医師不足で、郡市医師会に依頼ってというような状況になってるんです。我々としても、休日の健診になんとか人をやりくりしているというような状況で、やはり健診センターまで医師不足が影響しているので、その辺も根本的にはやっぱり医師確保に向けて全体的に考えていかないとってというような状況であります。以上、報告です。

(議長)

ありがとうございました。それでは、議事を進めてまいります。

報告事項 5 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業について

(議長)

続きまして、報告事項 5 「地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業について」、徳島大学より説明をお願いします。

(徳島大学)

資料 5 により説明

(議長)

ただ今の説明について、ご意見、ご質問などがございましたらお願いします。

(各委員)

意見なし

(議長)

よろしいでしょうか。それでは、協議事項に移らせていただきます。

協議事項 1 紹介受診重点医療機関の選定について

(議長)

それでは、協議事項 1 「紹介受診重点医療機関の選定について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料 6 より説明

(議長)

ただ今の説明についてご意見、ご質問などがございましたらお願いします

(各委員)

意見なし

(議長)

ご意見ございませんでしょうか。それでは、今回、意向ありとした県立三好病院、ホウエツ病院を引き続き紹介受診重点医療機関として選定することで調整会議として合意するということでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(議長)

ありがとうございます。合意したということにさせていただきます。それでは、本日の議事はすべて終了しましたので、事務局にマイクをお返しします。

(事務局)

はい。本日は、長時間の議事運営にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。以上で本日の会議は終了とさせていただきます。大変お世話になりました。

以上